

令和5年度 第3回千葉県博物館協議会会議 議事録

日時：令和6年3月1日（金） 午前10時～12時

会場：千葉県立中央博物館 会議室

出席者： 委員 高橋委員（議長）、濱田委員、井口委員、卯木委員、鴻野委員、細矢委員、
綱島委員、門脇委員

博物館 美術館：貝塚館長、植野学芸課長

中央博物館：田中館長、小田島副館長、米谷自然誌・歴史研究部長、
島立生態・環境研究部長

現代産業科学館：藤田館長、渋谷普及課長、堀内学芸課長

関宿城博物館：糸原館長、竹内学芸課長

房総のむら：岩崎館長、大森副館長

文化振興課 立和名副技監兼学芸振興室長、小出副主査

事務局 大木企画調整課長、尾崎上席研究員、樽研究員（記録）

※ 配付資料確認【事務局】

- 1) 座席表、議事次第
- 2) 協議会委員名簿、出席者名簿
- 3) 議事資料 千葉県立中央博物館みらい計画（案）
千葉県立博物館における地域連携と地域振興について
千葉県立美術館活性化基本構想（案）

- 1 開会【事務局】：委員10名のうち8名の出席により会議成立。
傍聴者なし。
- 2 あいさつ【中央博物館：田中館長】
- 3 出席職員紹介
- 4 議事（別紙参照）
- 5 諸連絡【事務局】
- 6 閉会【事務局】

(別紙)

【議事】

(1)：千葉県立中央博物館みらい計画の策定について

【高橋議長】

本日も活発なご意見、ご審議をお願いしたいと思います。

最初の議事の千葉県立中央博物館未来計画の策定について、中央博物館並びに文化振興課からご説明をお願いいたします。

【中央博物館、文化振興課】

説明

【細矢委員】

デジタルアーカイブについては、科博でも取り組んでおり、CC BY の形で利用促進されることは大賛成です。一方で、実際にどのくらい利用されているのかわかりません。従来のように申請を受けて、許可してということを行うと、書類で残りますが CC BY のような形でも追跡できる仕組みができるとこのくらい利用できていると説明できるのではないのでしょうか。私たちのところでもどのようにしたらいいのかということはおわかりませんが、工夫してみたいかでしょうか。

また、資料にはメタデータを管理することが非常に重要になってきます。大量のデータを一気に整備することはおそらくできないと思いますが、実際に利用された方、閲覧された方からデータを吸収して充実させることが可能であると思います。

【中央博物館】

館蔵資料を自由にお使いいただくために CC BY を設定していますが、悪用される可能性があることは心配しなくてはなりません。ただ、博物館資料の貸出などの事務処理を省くという観点からは CC BY という方法の利用が今後増えていくものと思います。また、メタデータについては、いただいたご意見を参考に作業を順次進めていきたいと考えています。

【綱島委員】

デジタルアーカイブは非常に可能性があると考えております。NHK でもニュース放送後にネットでもビフォーアフターの掲載しています。また、映像のカラー化などの技術を用いることで、過去の映像をより鮮明に見ることができます。例えば関東大震災の NHK ス

ペシャルを行った時もこのような古い資料が活きました。ホームページでも非常にアクセスも多く、世代を越えてみられています。千葉県のこのような写真は、地域への愛着にもつながりますので、どんどんやってほしいと思います。

【中央博物館】

現在公開しているページでは、昔の写真を現在の写真と比較して見せるなど工夫しております。使いやすく、面白いといったような形で今後も取り組んでいきたいと思っています。

【濱田委員】

小学校では2年生で千葉の勉強をすることになっています。副読本として、すすむ千葉県という教材を使っていますが、昔の写真等を使って新聞作りとかを子供たちもしていますので、とてもいいことだと感じました。学校現場では、なかなか先生たちがそこへ行って調べたりすることはないので、こういう情報があることが広く知られるといいと感じました。私も子供たちにお伝えしていきたいなと思います。

【高橋議長】

どのくらい宣伝されているのでしょうか？

【中央博物館】

今年は県政150年ということで宣伝しておりましたので、今後は学校現場等にも宣伝していきたいと思っています。

【高橋議長】

アーカイブ化は非常に重要だと思いますが、その中でもインデックスの付け方が非常に重要になってくると思います。ここについてはどのように工夫されているのでしょうか？

【中央博物館】

インデックスはいくつかキーワードを設定して行っていますが、写真は見る方によって得る情報が違います。そのため、説明文をつけることによってその中から拾えるようにしております。

【井口委員】

先日放送されたEテレの番組を拝見しました。職員の方も多く出演されていて、非常に良かったです。

子どもたち、あるいは大人になっても、自分が興味のあるところへどのように進んでいった方がいいのかと迷う方は大勢いらっしゃると思います。そのような方々にもヒントになる、

励まされる非常にいい番組でした。歴史的な資料の価値があるものも大事ですが、今の博物館を知らせるような方向でも取り組んでもらいたいとおもいます。

【中央博物館】

先日のEテレのザ・バックヤードでは、非常に良かったという反響をいただいております。様々な分野から博物館紹介していただき、本当にありがとうございました。

【門協委員】

画像の商用利用が可能だということで、基本的に画像の商用利用は、申請して無料の場合もありますが、基本的には有償というところで申請せずに商用利用できると相当なメリットがあると思います。県内では、観光だけでなく、イベントやまちづくりで様々なペーパー資料が発行されていますので、制作に携わっている方々までプロモーションができるといいと思います。もちろん教育の現場に足しして行うことが普通だと思いますが、そちらにもPRが増すような形の流れを作ってもらえると、非常に活用されると思います。

【中央博物館】

数多くの方にご活用していただきたいと思っています。

【高橋議長】

このような方々への宣伝方法はあるのですか？

【綱島委員】

様々な業界団体に流してもらおうといいと思います。今まで告知している組織や業界と違うところも含めて探るといいと思います。

【細矢委員】

ジャパンサーチ等と連携しても良いかと思っています。

【文化振興課】

中央博物館の本事業ですが、県政 150 周年ということでこれまでよりも多くのデジタル化の予算がつきました。今千葉県が進めている県有資源の共有財産化や報道広報課等で抱えている色々な県内の写真を将来的にはこのような形で県民の皆様に使っていただけるようにということで、この部分は博物館の得意な部分ということで博物館に一部お願いして実践していただいているものです。もちろん、学校利用や先ほどお話に出ましたジャパンサーチ等には博物館側にも努力して広めていただきたいと思っておりますし、それ以外のメディアリレーション的な部分は、県の方でも対応する部署がございます。他の部署等

と連携しながら制作会社にも流れるように工夫をしているところでございます。また、写真が使えるだけでなく、その資料の解説について、博物館もきちんと説明ができるということを博物館側をお願いしたいこととございます。今後も県庁と博物館で協力しながら広めていきます。

【高橋議長】

写真データのデジタル化の話が挙がっていますが、標本のデジタル化、要するに 3D データの需要も出てくると思いますが、このような検討はなされていますでしょうか。

【中央博物館】

今後、写真だけではなくて、博物館資料全体ですね、デジタル化というものも進めてまいります。3D データ等を使用した見せ方の工夫など取り組んでいこうと思いますが、今の展示でも正面から見るだけではなく、上からも下からもみつことができるようにミラーを置句など工夫しておりますので、デジタル化についても同じように進めていきたいと思っております。

【綱島委員】

パブコメの件数が 5 件ということは非常に少ないと思っております。ホームページを拝見させていただきましたが、パブコメのページが深くに入っていて、このページを探すこと、ここまでたどり着くことは厳しいなという印象がありました。今後パブコメをされる時にはこのページに辿り着きやすくする工夫があるといいと思っております。

【中央博物館】

令和 2 年 9 月に策定しました県立博物館のあり方の時には、大体 90 件ほどありましたが、今回少ないという印象です。

【文化振興課】

広報についてはあと一週間あるので、活かしていきたいと思っております。

【鴻野委員】

現代アートのアーティストも、古い道具を集めたり、古い写真を集めたりする時に、誰がどの場面で撮ったのか、使ったのかという個人の物語を収集して、小さな歴史から大きな歴史を考えていくというようなプロジェクトが多々見られると思っております。今後県民の皆様から写真を集めた時に、その物語などがついていて、データとして保存されるとより関心が広がるのかなと思っております。

【中央博物館】

文化財だけではなく、美術作品についてもストーリー性というものが非常に重要だと考えておりますので、いただいた資料についての背景といったようなものが分かるような仕組みを進めていきたいと思っております。

【高橋議長】

以前、収蔵スペースの話が色々話題になったと思いますが、その辺についてはどのように進めていこうとお考えですか。

【中央博物館】

みらい計画の中でも言及していますが、今収蔵庫の方は100パーセント近い資料が入っています。今後進めていく中で、これから新たな収蔵庫を作る等様々な計画も出てくると思いますが、貴重な資料ですので、十分に管理していきたいと思っております。また、貴重な収集した資料を捨てるわけにはいきませんが、その整理方法について今後規定を作っていかなければいけないと考えています。集めるだけ集めても捨てることができないというようなものではなく、スクラップアンドビルドも必要と考えております。

【高橋議長】

この問題はある程度先を見据えながら進めていかないとしますのでお伺いしました。

(2) 県立博物館における地域連携と地域振興について

【高橋議長】

それでは次の議題、県立博物館における地域連携と地域振興について事務局からご説明をお願いいたします。

【事務局】

本議事については、1回目の会議で現在行っている取り組みについてご議論いただきました。今回の会議では今後の取り組みについて各館からご説明申し上げます。

【美術館】

資料を用いて説明

【鴻野委員】

コメントですが、五十嵐靖晃さんは人と人を結ぶ仕事をしてきた方なので、地域連携という意味でも大変期待できると思っております。お配りくださった資料の中に「そらあみ」という

作品の写真がありますけれども、これは瀬戸内国際芸術祭で制作した作品で、瀬戸大橋が開通するに伴って、島と島を結ぶ船がなくなってしまい、島と島を越えた人々の交流の場がなくなってしまったということを受けて、五十嵐さんがそれぞれの方に家で網を編んでもらって、1つの作品にする場を設けることで、地域の連携を盛りあげていったと伺っています。また、この作品は、風景の中に置くことで普段は見慣れている風景であっても、その網を通して見ることでまたその地域の美を発見するという意味があって、千葉でも機能する、期待できるプロジェクトだと思います。また、五十嵐さんはある地域と世界を結ぶ活動をされてきた方でもあって、資料の1番下の赤い服を着ている写真は、五十嵐さんが南極の国際芸術祭に参加した時の写真です。これはアレクサンドル・ポノマリョフというウクライナ出身のアーティストが行った、世界の100人のアーティストや文化人が集まった国際芸術祭で、五十嵐さんはそこに日本在住のアーティストとしてはただ1人選ばれ、皆で編んだ網を使って南極でたこ揚げをするというプロジェクトを行いました。このポノマリョフさんは、今年夏に北極へのそういった旅を企画していて、日本からは五十嵐さんだけ招待されると伺っています。もしこれが実施されるようであれば、五十嵐さんが、北極と千葉を中継で結ぶようなプロジェクトも展覧会の中でやりたいと聞いていて、地域を結ぶとともに、千葉を世界とも結ぶ力のある作家なので、色々楽しみにしています。

【美術館】

ありがとうございます。

【高橋議長】

この資料を拝見すると、千葉みなと全体が美術館になるコンセプトではないかと思うのですが、このような企画は、作家さんが主体で進められている、それとも美術館さんがコミットされてこういう企画になっているのでしょうか。

【美術館】

まず、私どもの方から五十嵐さんにやってくれませんかというお話を持っていきました。その際にふわっとしたプランを持っていくと、五十嵐さんから具体的な意見がありますので、その後お互いに擦り合わせてプランを作成しています。

【高橋議長】

ということは、美術館側もこの企画にかなりコミットされながら臨んでいるということでしょうか。

【美術館】

もちろんです。例えば、法令のチェックや、物理的な問題を様々確認しなくてはなりません。作家の頭の中にあるものをどう実現するか、我々のやりたいこととうまくすり合わせないといけません。

【文化振興課】

美術館がこういったテーマで、五十嵐さんを選ばれて展示することになったんですが、千葉みなと地域の活性化というものに県としてもかなり力を入れています。その中にある県立美術館の果たす役割というものにすごくその期待をしているところで、まさに来年度、美術館が50周年というタイミングで、いろんな地域の人を巻き込んでこういった展示ができるということは県庁の方でも注目しております。県の方では、この赤い外枠の丸がもう少し広がって、市役所とかNHK千葉放送局という話を美術館とお話させていただいております。

【高橋議長】

なかなか壮大なプロジェクトになりそうで楽しみです。
それでは、中央博物館からお願いします。

【中央博物館】

資料を用いて説明

【高橋議長】

MLA 関連の話ですが、図書館でも従来の、本を置くだけという受け身ではなくて、積極的に収蔵物を利用してもらう取り組みをなさっていると思います。それに対して博物館が専門家の立場で関わっていくことはと非常にいいことだと思います。ただ、この問題は中央博物館だけではなくて、他の館でも同じように関連していくことだと思います。この問題を交通整理をする立場が必要になると思いますが、その辺について中央博物館としてというよりも、博物館全体の窓口としてどのように行う見通しなのかをお伺いしたいと思います。

【中央博物館】

今後はこのような取り組みを広げていかなければいけないとは思いますが、現状各館それぞれやっている仕組みがあると思います。当館では図書の紹介だけではなくて、例えば展覧会においてはそのテーマに沿った本の読み聞かせというものもやっております。各館がそれぞれ図書館や書店との連携ということを進めておりますが、今後は議長が仰るよう、どこかがグリップする形で進められたらいいと考えます。

【細矢委員】

MLAにUとIを足す場合があります。UはUniversity、IはIndustryです。ここでは千葉大が近くにありますので、そういうところの学生さんと連携をする、うまく中央博物館の資料を活用してもらうというやり方もあると思います。その辺のことは何かアイデアがあるのでしょうか。

【中央博物館】

学生さんはボランティアという形で登録していただいて、例えば展示室における一般の来館者向けの解説等を行っていただいております。また資料の収集についても、その調査整備にも携わっていただいているというようなところがあります。それぞれの学生さんは、今後の道筋を立てて、博物館を経験してみたい、また研究してみたいという方々が多くいらっしゃいますので、様々な形で学生さんとも連携していきたいと考えております。

【細矢委員】

授業などでも資料をうまく利用してもらえよう道筋があると大変いいと思います。

【高橋議長】

文化関連の連携についてはどのような方向性をお考えでしょうか。

【中央博物館】

文化というジャンルも非常に大きいですが、例えば考古学分野ですと、千葉県の文化財センターと連携しまして考古の展示を行っていきます。芸術等の領域になりますと、今後考えていかなければいけないのですが、徐々に広げていければと思います。

【井口委員】

博物館が世の中に求められている新しい役割を果たしていくとなると、本当にここにあるような様々なことを対応していかななくてはならないと思います。今まだマスタープランの段階だからいいかもしれませんが、アクションプランの段階で多様な主体と関わって、事業展開を行う時にマンパワーが非常に心配です。やりたいこともいっぱいあるし、法的にもその努力義務だらけになってきているという現状を考えると、非常にそのバランスが気になります。ですから、職員のやる気と、健康も含めたところにも注意を十分に払っていただいて、無理のない範囲で素晴らしい実施計画、アクションプランを作っていただきたいと思います。職員の皆様は使命感で真面目に働いてしまう集団だと思っておりますので、このことを気にかけていただきたいです。

【中央博物館】

マネジメントも十分に気を付けてまいります。

【高橋議長】

それでは次の、現在産業科学館をお願いします。

【現代産業科学館】

資料を用いて説明

【高橋議長】

街の利を活かした非常にいい企画をなさっていると思いますが、参加者や実際に実施された方のアンケートは行っていますか。

【現代産業科学館】

それぞれの事業で、アンケート用紙を配ったり、スマホでアンケートに答えていただいたりしております。

【高橋議長】

結果としてはかなり評価が高いのでしょうか。

【現代産業科学館】

アンケートの結果を見ますと評価が高く、実際に体験してみてよかった、また来たい、という良い反応があります。

【高橋議長】

開館 30 周年というと、ちょうど 1 世代終わって、子供のリピーターが始まっている頃だと思うのですが、その辺の取り組みは何か考えられますか。

【現代産業科学館】

今ご来館いただいている子供たちの親世代が、私たちも昔来ていて、連れてきましたという方が多いので今後取り組みを考えていきたいです。

【濱田委員】

キャリア教育を非常にイメージされて活動されていることを伺って関心を持ちました。小学校 6 年生を対象にキャリア教育を行っていますが、どこでやるという場所の問題が課題となっています。学校の近隣であれば協力して活動することができますが、県の施設で県のいろいろな産業について触れる機会を設けてくださっているのはすごくいいなと感じま

した。千葉県の産業をたくさん扱っているので、多くの学校がこういうところを使えることもすごくいいなと思いました。

もう1つ感心したことが適応指導教室の子供たちへの出張講座で、適応指導教室に通っている子供たちにとっては非常に魅力的だと思います。そういうことを知る世界が、自分たちの進む未来がなかなか見えない中で、いろんなことを考えているけれども、こういうのもあると、提示してもらえるのは子供たちが生きていく希望を持てるものだと思うので、ぜひ継続してもらいたいし、市川市以外のところでもお願いできたらなと感じました。

【高橋議長】

関宿城博物館をお願いします。

【関宿城博物館】

資料を用いて説明

【卯木委員】

お配りいただいたチラシを見せていただきましたが、この当日自由参加というのは団体で言っても大丈夫でしょうか。

【関宿城博物館】

団体様であれば、事前にご連絡いただくと大変助かります。

【卯木委員】

桜祭りが3月、イベントが4月ですが、今年の暖冬で桜の状況はいかがでしょう？

【関宿城博物館】

桜のつぼみはまだ固いです。今はだんだんと梅や菜の花が咲いてきています。

【井口委員】

小規模な博物館であるとおっしゃっていましたが、それでも県境を越えた範囲をカバーされております。県を越えた地域の方々と共同で行なったものや、ボランティアの皆さんの中に県を越えた方が入っている状況について教えてください。

【関宿城博物館】

川の町ネットワークという、五霞町、境町、野田市で共同して花火大会を行っております。実態として、ボランティアや友の会の皆さんは埼玉県や茨城県からの方も多いです。お客様も同じ状況で、3割は埼玉、3割は茨城、3割は千葉、それ以外の1割が他の方とな

っております。そういう場所だから、また当館のテーマからも、千葉県にだけこだわって仕事をするのではなく、埼玉県、茨城県も考えて進めていかないと考えております。

【高橋議長】

それでは、房総のむらに移ります。よろしくお願いします。

【房総のむら】

資料を用いて説明

【高橋議長】

ホテルとの連携は観光という点が非常にポイントになってくると思いますが、実績としてはどのくらい進んでいるのでしょうか。

【房総のむら】

だいぶ前から空港周辺のホテルとは提携しておりまして、具体的に申し上げますと、ホテル日航成田さんで外国人の方を色々なところにバスで送迎してますが、経路を伸ばしていただいて、外国人の方を房総のむらまで連れてきていただくことを以前やっておりました。ただコロナや運転手さんの確保等の色々な問題で、現在なかなか難しいということでしたが、来年度からまた復活させたいというお話はいただいているところでございます。それから、4月からはJRさんが空港から外国人の方に、色々な施設を見学してもらう中で、房総のむらも見学させていただきたいというご提案もいただいているところです。

【細矢委員】

外国の方を招いて日本の文化を紹介するというのが面白いと思いましたが、例えば典型的な日本のカルチャーとしてこんなものがあるというコースがいくつかあるのでしょうか。

【房総のむら】

房総のむらは、江戸末期から明治初期の建物を中心に再現しています。その中で、例えば上総、下総、安房それぞれの農家を建築しており、昔の房総地方の農家の暮らしがどのようなものかを見ていただいたり、あるいは、実際に鉄を叩いて小刀を作ったりですとか、そういうものを見ていただくような場所もございます。外国人の方にとっては非常に魅力のある施設と考えております。

【細矢委員】

今後連れていきたいなと思います。

【房総のむら】

ありがとうございます。お待ちしております。

【高橋議長】

資料の図1とあるところ、非常に広い地域が連携候補に挙がっていますが、これはどのような連携をイメージされているのでしょうか。

【房総のむら】

実はいろいろなところから賛助会員として協力をいただいている中で、セールスに、酒蔵さんに伺ったところ、外国の方は日本酒に興味があって、ぜひ利き酒をやってみたいということで、逆に酒蔵さんからご提案もいただいております。我々も待ちの姿勢ではなく、外に出て博物館を地域の方に利用していただいて、地域の産業の活性化を図っていきたいということで、財団という半分公、半分民という立場ですが、県ではなかなかできないことをできたらいいと考えております。

(3)：その他

【高橋議長】

事務局からは何かありますか。

【美術館】

資料を用いて説明

【高橋議長】

ありがとうございました。各委員からは何かありますか。

【委員】

ありません。

【高橋議長】

他にご意見等がなければ、これで議事を終了とし、事務局に進行をお返しいたします。ありがとうございました。